

今月もさまざまに心動かされる言葉との出会いがありました。

写真館で

盛られて

消された

わたしのホクロ

風船（東京都）

“盛る”という語は、現在の SNS 社会によって新たな意味が付与された言葉のひとつですよね。自分をよりよく見せたい気持ちは誰にでもあると思いますが、この作品の「盛られて」には、自分の一部を「消された」こと、他者によって判断されることの痛みと抗議の気持ちを感じられました。

君が去るこの感情に名を付けた

ヒポポタマスに似た発音で

まちりこ（埼玉県）

「名を付け」することで、感情をなんとか手なずけようとしているのでしょうか。「ヒポポタマス」はカバの英語名ですが、意味から解き放たれた音として楽しむことができますし、ユーモラスな響きに「君が去る」という出来事を積極的に乗り越えようとする思いも伺えます。また、カバ（河馬）から、記憶に深く関わる脳の一部、“海馬”へと連想が及び、一語の持つ広がり面白く思いました。

鳥曇り

閉じ込めてくれそうに本

大橋 弘典（群馬県）

鳥は北へと去り、残されたのは春の憂いを誘う曇天。季節は進む。一方、本のなかの世界は永遠に変わることがない。本のなかに、もっと言えば 1 篇の詩のなかに、自分を「閉じ込め」ることも去ってゆくものを「閉じ込め」ることもできる。

翻訳機もらって捨てた春の闇

花澤 希海(千葉県)

「翻訳機」に頼ることなく、この世界を自らの言葉で解釈してゆくという意志と、新しい命の気配に潤んでいる「春の闇」とが呼応しあっています。

狂った水で魚を煮る

加藤 美紀（愛知県）

私には放射能汚染水を海へ流すという政府の決定への静かな怒りとして響いてきました。

詩の言葉は社会と対峙することもできるのです。

母からお下がりで貰った  
「どうでもいい部屋着」が  
捨てられない

風船（東京都）

母からもらったものを捨てるのは母を捨てるような気持ちになる。人生は、どうでもいいけどどうでもよくない、どうでもよくないけどどうでもいいものでできている。

うつむいたら  
シロツメクサに埋もれた爪先  
宇宙の  
そう悪くないところにいる私

春町 美月（大阪府）

ささやかな喜びの瞬間がわたしたちの生を支えている。「宇宙」の語に、ぐんと空間が押し広げられ、宇宙の一部であるところの身体を通じての「私」の素直な感動が、のびやかな景色とともに伝わってきます。

今は型から外れるため  
縁をなぞっているところ

藤色（京都府）

「型から外れる」という大きな選択を勢いとするのではなく、慎重に行おうとするその足取りに惹かれました。「縁」を確かめたあとの跳躍が想像できるところにも。

長い長い旅でした  
これが最後の改札口です

まちりこ（埼玉県）

実際の人生では、どんな経験も人との別れも、これが最後になりますよとは誰も教えてくれない。最後だとは思いついて「最後」はやってくる。わたしたちはなんと取り返しのつかない一步一步を歩いていることか。

嘔吐する全てがきれい ジャム・  
プリン・食パン・イチジク・  
ヒアデス星団

燦嗣いとり（愛知県）

「ヒアデス星団」の出現により、孤独の深さと同時に、口のなかの暗闇が無限の宇宙につながっているかのような広がりを感じられ心に残りました。

春泥を掬えば俺に舟がある

大橋 弘典（群馬県）

「俺」という一人称によって、手のひらでつくった舟がいつそう力強く感じられます。手のひらが掬うかたちになることを忘れないようにしようと思いました。

あきらかに正しくなくてこの私

桜をちぎることしかできない

白野（新潟県）

正しくないからもっと正しくないことをしなくてはならない。深みにはまってゆく心に、ちぎられた花びらが降り積もってゆく。

花と打つときは花火の火を消す

長谷川柊香（宮城県）

語り手は、火を出現させ「火を消」しているのだ。「花と打つとき」にはいつも、パソコンに向かって一人でひっそりと。「火」はなにを燃やそうとしているのだろう。

2番出口の階段を上る間の感情

だけ連ねた日記

浅葱（愛知県）

着想が新鮮です。どんな「感情」なのか書かれていないので、読み手にいろいろな想像を促します。特別な場所へ向かう途中なのか、それとも家へと帰る毎日の階段なのか。繰り返し「感情」を言葉にし突き詰めてゆくこと、それは詩を書くという行為そのものに通じています。

死んだ姉の名を持つ樹が

庭に作っていた木陰を

瞼の奥に探す

春町 美月（大阪府）

「姉」も「樹」も「木陰」もすでに失われている。だから「瞼の奥」を「探す」しかない。喪失にわたしたちはたびたびうちめされますが、目を閉じれば、甦らせることのできる思い出があることは幸福なことでもあるのでしょうか。

他にも言葉の持つ力を感じられる詩がたくさんありました。

5月の作品も楽しみにしています。